

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7-11  
府教育会館704号  
TEL 06-6765-8904  
FAX 06-6765-8905

## 女性部学習会

### 立命館大学国際平和ミュージアム

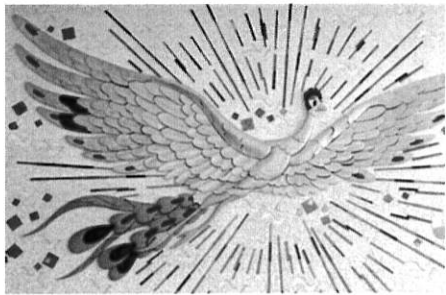
11月23日女性部学習会として立命館大学国際平和ミュージアムに行きました。今、世界では多くの国々や地域で戦争や紛争が続く、犠牲になっている子どもたちがたくさんいます。日本でも「新しい戦前」と言われ、様々な法律が整備されています。今回の学習会は、自分たちに何ができるのかを考える機会となりました。

立命館大学国際平和ミュージアムは京都市民による平和のための戦争展の運動の成果と、立命館大学の戦争協力への痛切な反省、という二つの要素が合流して1992年に開館し、アジア太平洋戦争の加害と被害、この戦争に抵抗した人々の声、この戦争にともなう責任等についての展示をしてこられました。2023年リニューアルされ、これらの要素を深化して、日本帝国主義を直視し、戦後におけるその克服の努力、分断された

…と、ここまでHPより館長さん挨拶からまとめてみました。とにかく広い展示室に盛りだくさんの内容がぎゅぎゅ詰め込まれています。そして、ところどころに聞いかけがあります。「戦争は何をもたらしたのだろうか?」「戦争がなければ平和でしょうか?」現代を生きる私たちは、過ちを繰り返さないために、自分で、社会として、考えていく責任があると感じました。

平和についてもっと知りたい方には国際平和メディア資料室があり、学習を深めることもできます。

1階には長野県にある戦没画学生の慰霊美術館「無言館」の京都館があり、戦場に散った画学生たちの遺作が展示されています。



入り口からすぐの壁面に飾られた「火の鳥」

ミュージアムからあなたへの質問「今、あなたが考える平和とは?」みなさんも一度ミュージアムを訪ねて、自分に問いか

けてみてはいかがでしょうか。

(女性部)

## 参加者の感想



- 無言館のいのちのアトリエでは、歳若く戦争で亡くなった方々の絵が展示されていて、活躍してたくさんの絵を發表していただろうに…と思うと、我が子や子どもたちと重なり、辛い親心を思っ悲しかったです。戦争から若い命や才能を守りたいと強く思いました。
- 特に印象に残ったのは秋期特別展で、沖縄県伊江島に住む阿波根昌江鳥(あはごんしょうこう)さんが島唯一のカメラで写した米軍の暴挙や島民の闘争の記録でした。強制的土地収収に対し非暴力で闘ったのです。「日本人もアメリカ人も天国では仲良く暮らしましょうね」と日本語と英語で書いた立て札のまわりに農民が立つ写真もありました。今、台湾有事に備えてと近辺で軍備増強が着々と進んでいます。私に何ができるのか考えています。

- デジタル映像がたくさん駆使されていて、日本が植民地化した国々に兵隊や一般の人々がどれだけ移動したかという映像に見入ってしまいました。足音付きで迫る感じが印象的でした。また、「爆弾三勇士」の古い映像や負傷兵の動画映像を見て“これが日常だったのか”と薄ら寒いものを感じました。
- 初めて立命館大学平和ミュージアムに行き、学ぶことが多かったです。展示の中の「戦争をしないことが本当の平和か、今の時代は平和ですか?豊かさとは何でしょうか?」という問いかけが印象に残っています。京料理も堪能することができ、日々慌ただしく過ぎる中で、束の間の休息のようなリフレッシュできる機会となりました。

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp

## 書記部の

### つうじぶ



12月13日、明治安田生命保険相互会社は、2024年生まれの子どもの名前の調査結果として、男の子は「陽翔(はると、ひなと)」、女の子は「紬(つむぎ)」が1位と発表した。「陽翔」の「翔」は、大谷翔平効果(使用漢字1位)もあり、7年ぶりにトップとなったようだ。

「名は体を表す」という慣用句がある。「人や物の名はそのものの性質や実体をよく表すものだ」という意味である。仏教用語の「名体不二(みよふたいふに)」という言葉がこれに由来する表現といわれており、南無阿弥陀仏の名号(仏・菩薩の称号)の功德は、そのまま阿弥陀仏様の本体(仏体)の功德であるということ、すなわち、名と体とが一緒であるということが本来の意味さうだ。

名前は、親から子どもへの初めての贈り物と言われている。小学校の頃、自分の名前の由来を書く宿題に心躍らせて親に尋ねてみたところ、「画数よ」と思わぬ返答が…。画数は大切であるし、この名前のおかげで今の私があることに感謝もしている。ただ、子ども心に「名前の由来は…」とどこか寂しさを覚えた記憶が今でも蘇る(笑)。今年度は卒業学年を担任している。子どもたち一人ひとりの顔と名前をあらためて思い浮かべてみると、まさに「名は体を表す」という言葉通りだなと感じる。名前の一つひとつに、願い・希望・夢・(画数も…)等多くの気持ちが入められていると思うと、尊いとともに感慨深い。子どもたちには、これまでの育ちを振り返るとともに、大きく成長した自分を実感し、自信をもって次のステージへ巣立ってほしいと願っている。卒業まであと3か月、いざラストスパート!

# 平和に生きる子ども、それはみんなのねがい



## 教育のつどい大阪2024

10月26日、「教育のつどいおおさか2024」の全体会が岸和田市立波切ホールを会場に開催されました。記念講演は、ジャーナリストの西谷文和さんが世界の紛争地や戦場などへの取材で得た「リアル」な姿を参加者に伝えました。

11月10日には教科別分科会（会場：泉佐野市立中央小学校）、11月24日には問題別分科会（岸和田市立北中学校）が開催されました。府立支援学校をはじめ、府内の学校教育職員、地域の市民団体などから112本のレポートが寄せられ、報告・討論がされました。

### 「平和ってなにか」

泉南ブロックの教職員組合や市民団体などで構成された実行委員会の現地企画では、平和学習を通して子どもたちが学び感じたことなどを歌に

した「平和って何かな？」が紹介されました。子どもたちの純粋な平和への思いや願いが散りばめられたステキな歌詞と曲を参加者みんなで歌い

ました。

続いて、泉南地域で起きているさまざまなできごとやとりくみを紹介する「聴いて！泉南の主張!!」では、子どもたちの学ぶ権利を侵害する教職員の欠員問題、私学助成を

求める署名運動、教育のIC

### 憲法9条をもつ国への信頼

「ガザ、ウクライナ、万博戦争と政治のウラを読み解く」と題して、ジャーナリストとして世界や日本各地を取材している西谷文和さんの記念講演がありました。

イスラエルでの取材を終えて帰国したばかりの西谷さんは、現地の方々への取材を通して得られた声をたくさん写真とともに紹介しました。西谷さんは、イスラエル国内でも反戦運動はある。その一



分科会でのレポート報告

工化の危うさ、幼稚園・保育所の「再編」、小中学校の「統廃合」、市民病院の「独立行政法人化」、忠岡「産業廃棄物処理施設」誘致に反対するとりくみなどがリポートで紹介されました。



### 小さなことからコツコツと

岸和田支援分会 木下 朋幸 さん



私は8年前に青年部の教職研究会に参加したのをきっかけに組合に入りました。経験が乏しい中、所属している学校以外の先生方と交流したり、授業アイデアを教えていただけたりしたことが大変ありがたかったです。また、組合の先生方が現場で働きやすい環境をつくらうと頑張ってくださっていることも知ることができました。

私自身は組合での大きな働きかけはできていませんが、組合に所属し続けることや組合の仲間を増やしていくことで、組合で熱心に取り組まれている先生方の支えになればと思っています。まずは組合に加入するだけでも、熱心に働きかけをしてくださる先生方の力になると思います。今の環境、これからの学校の環境を良くしていくためにも、小さな取り組みから、一緒に始めてみませんか？

新しいメンバーが増えて、一緒に活動ができることを楽しみにしています。

### 堺泉北・泉南ブロックで署名宣伝行動

12月14日、「支援学校の新校整備をもとめる」請願署名宣伝を、南海堺東駅でおこない、4分会（泉北、たいせん、佐野、泉南）と本部、堺の障害児教育をよくする会から合わせて10人の参加がありました。一段と寒さが増す中でしたが、「署名します」と足を



とめて署名をされる方、支援学校の保護者など関係者の方、主旨を説明すると応じてくださる方など、今の「過大・過密」の支援学校の状況に関心が広がっていることを実感するうれしい反応がありました。合計43筆を集約しました。引き続き、各職場でもさらなる署名のとりくみをお願いします。

方で、ガザへの攻撃を賛美する人もおり、戦争が国を分断していると言及されました。また、2023年10月にウクライナへの取材を行ったことについて触れ、ウクライナとロシアの戦争で、1年間にCO2 1億24万トン排出しており、地球温暖化にも大きく影響し、多くの難民を生み出していると言及されました。さらに、戦争はデマやフェイクニュースなども使って扇動し、激化・長

期化している。正しい情報をつかむことと、話し合いで戦争を止める努力が必要と強調しました。私たちが日本のテレビなどで得られるニュースや情報ではわからないジェノサイドの実態をまざまざと突きつけられました。

救い、平和に導いたことを紹介。アフガニスタンの人々は、中村さんを尊敬しているが、その背景には、日本が憲法9条をもつ国ということへの信頼感があると語りました。

### 西谷文和 路上のラジオ

～Radio On The Street～

世界の紛争地・戦場などを自ら歩きその取材の中で知れた様々な「リアル」をベースにしながら、崖っぷちにある日本の今を鋭くえぐり、真実のメッセージを伝えるYou Tube番組です。

